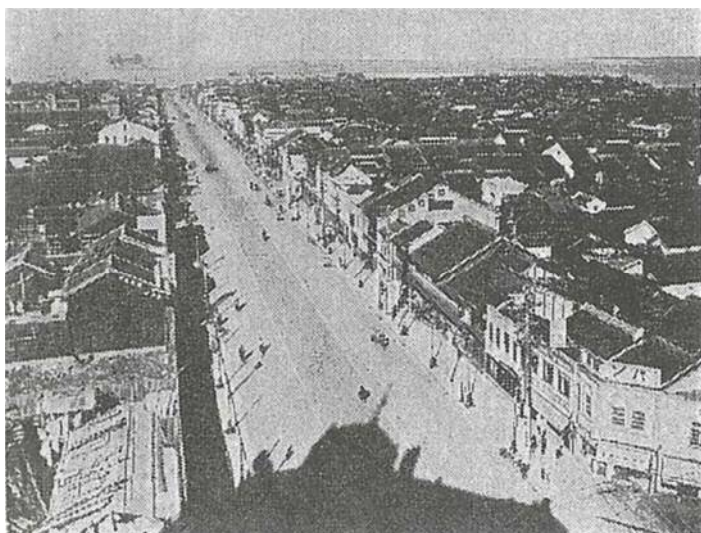


<昭和10年頃の(都)博多駅築港線>



<出典：福岡市「福岡市土木史」>

幅員27mで整備された博多駅築港線

福岡市では博多港修築計画の進展に伴い、港と博多駅や天神町などの市内主要地を結ぶ道路が必要となり、昭和9年から港と博多駅を結ぶ博多駅築港線（幅員27m）のうち港から現明治通り間の街路築造工事に着手し、昭和11年度に当該区間が完成した。昭和12年度からは現明治通りから博多駅間の整備が始められたが、長期間にわたる事業は戦局の拡大にともなう労力や資材の入手難により、未完成のまま戦後に持ち越された。

～街路構造令に特化した各都市の事例～

福岡市

はかたえきちっこうせん

(都) 博多駅築港線

諸元表

名称	(都) 博多駅築港線 主要地方道博多駅停車場線	経緯	S 2 1 年 博多駅築港線を含む復興都市計画街路48路線が都市計画決定
延長	約1.4km (当初) 約2.0km (現在)		S 2 7 年 都決変更 (一部の幅員：50m→47m) (延長：1,420m→1,210m)
種級	4種1級 (現在)		S 3 2 年 都決変更 (起点：旧博多駅→新博多駅) (延長：1,210m→1,960m)
幅員	50m (当初計画) 50m (現在) 全体幅員に対する車道以外の幅員割合 ➢48% (当初計画) →48% (現在)		S 4 5 年 道路愛称が「大博通り」に決定 S 5 9 年 博多駅築港線の整備完了
街路樹	ケヤキ、クロガネモチ など		S 6 1 年 地下鉄1号線(姪浜～福岡空港)及び2号線(中洲川端～貝塚)計14.5kmが全線開通
			H 1 年 大博通りシンボルロード事業完了 H 2 年 大博通りシンボルロード事業が全国街路事業コンクールで特別賞を受賞

<昭和45年頃の(都)博多駅築港線>



<出典：福岡市「福岡市土木史」>

博多駅前広場付近から博多港方面を望む

昭和20年に戦災地復興計画基本方針が閣議決定され、翌21年福岡市は戦災都市に指定された。同年から始まった戦災復興土地区画整理事業及び昭和32年より始まった博多駅土地区画整理事業により一部区間が整備され、昭和50年度から博多駅築港線の地下を走る地下鉄の進捗に合わせて残る区間の拡幅整備が進められ、昭和59年度に幅員50mへの拡幅整備が完了した。

<現在の(都)博多駅築港線>

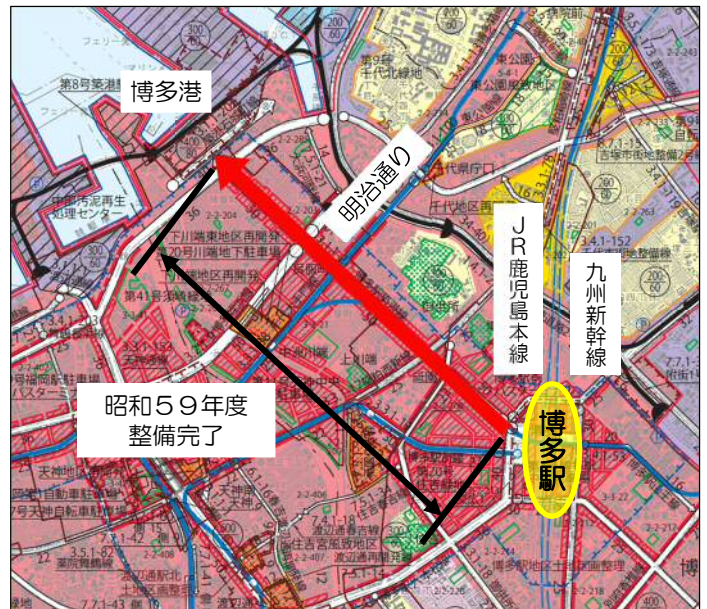


<出典：福岡市「まるごと福岡・博多」>

博多駅前広場付近から博多港方面を望む(整備後)

昭和44年の市制80周年記念事業により、道路愛称が博多の大通りという意味をこめて「大博通り」と名付けられた。昭和61年度から市制100周年記念事業である「大博通りシンボルロード事業」(大博通り歴史の散歩道)に着手し、歩道をカラーブロック舗装に、歩道の18カ所には市内の遺跡からの出土品の写真を焼き付けた陶器のタイルやレプリカを設置し、歴史の散歩道として市内外の人々に親しんでいただける福岡市を代表する道路として整備されている。

位置図



現在の横断面図



※無電柱化、地下鉄及び地下通路整備
 ※シンボルロード事業 横断構成かわらず